

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

リリカルよりも平和に暮らしたい

【作者名】

LED

【あらすじ】

気が付いたら神に言われて転生させられた。特典もらった転生者もいるみたいだけど俺はデバイスだけ。だけど気にしない。平和なら問題 nothing! ……とところでリリカルなのはってなに？

第1話

うん……………？真つ白な場所だな……………
おかしい、さっきまで俺はこんなところになんていなかったはずだ。
何にもねえ。どっすりやいんだよ…

『起きたようじゃな』

髭を生やしたお爺さんがいきなり現れた。
つかなんて頭に響いてくんの？

『お主は一度死んだ。じゃがまあアレじゃ。』

『チャンスをやるじ』

『生き返らせてくれんのか？そもそも死んでない気がするけど』

『そういついごとじゃ。もともとあそいで』

『死ぬ予定ではなかったしの』

『はあ、まあ取り敢えずさっさと生き返らせてくれよ』

『といつわけで転生してもらおう』

……………はい？

『まで！んなの聞いてねえ!？』

『二人ほど先に行ったし…さっさと行くのじゃ』

「え？ちよ？えええええええ?!」

そうして俺こと加賀美創（かがみ そう）はいきなり現れたブラックホール（？）に吸い込まれた。

気がついたら知らない天井……及び室内。

まあまあサイズ、普通の一軒家みたいだ。

どうしてこんなところにいるかつて？

そりゃ転移させられた部屋のテーブルにあった機械からここが俺の家だって教えてもらったのさ。

ちなみにデバイスってもんらしい。

《私の固有名称はマスターが決めてください》

「といわれてもね……」

つかそもそもデバイスってなんだよ」

《それは私の方から説明します》

ー説明中ー

「魔法ねえ……なんとも物騒なもんだよオイ」

《お分かりいただけましたか？》

「大体はね〜取り敢えず名前だったか？」

《はい。よろしく願いいたします》

「そうだな……そっぴいその声はデフォルト？」

《はい。この声で固定です》

「じゃあ男っぴい名前は駄目だな…

じゃあティナで」

《了解しました。登録します》

「よっぴいよろしく頼むぜティナ」

《こちらこそよろしく願いいたしますマスター》

「さて、一つ聞きたいんだが」

《なんでしょうかマスター》

「なんで俺7歳？」

《神からの伝言では原作介入しやすいうようにということでしたが……》

「なんだそりゃ……するつもりもねえし、したくもねえんだけど」

《マスターには魔力がありますので介入せざるを得ない状況に陥りやすうのびん》

「はあ、だよな…」

それに俺以外に二人いるみたいだし…

せめて平和に暮らしたい……………

というわけでなんか事件が起こるのは確定みたいだし、

鍛えておくことにした。

魔法の使い方も学んでおかなければならない。

まあ、戦闘に関してはほとんど問題ない。

前世で散々してきたことだし…

生活面では生活費の問題があるかと思っただが、

口座に勝手に入ってた。

多分神だ。絶対神だ。

その他の問題は……………家事かな。ま、できない訳ではない。一般人程度には出来ますとも。前世でも一人暮らしみたいなものだったしな……………

……………が、これがまた難しい。前世じゃ18歳だったからな。感覚が違いすぎる。

「まずこの体に慣れねえとな…」

まずまず慣れてきて一週間。
ついに魔法の訓練である。

《マスターの魔力はAです。ですので基本的なものは大体使えます。》
「ありがとうティナ。それでなんかカモフラージュみたいなもんで使えないか？人目のつかないとこなんてそうそう無いし」

《でしたら結界を。展開します》

「了解っ」と

プレスレット状のティナを掲げ、庭に結界とやらを張ってもらった。

そのあと、シューターだのプロテクトだの色々練習した。

結局その日は朝から晩までひたすらに練習していた。お陰で全身の疲労が……………

あ、学校と行って行かなくて良いのかなコレ……………